

# 九州初の「IBMチャンピオン」が提案する、 「IBMワトソン」活用の「AI経営」

## 株式会社福岡情報ビジネスセンター

AI時代を迎えて、企業経営はどのように変わっていくのだろうか。株式会社福岡情報ビジネスセンターの武藤元美代表取締役は、今後の企業経営のあり方を聞いた。

### IBMチャンピオンが、福岡・九州から初めて誕生！

世界175カ国以上でビジネスを展開するIBMは同社の商品・サービスに関して、世界中で優れた貢献をした支持者を「IBMチャンピオン」として表彰している。日本からは7人が選ばれ、そのうちの1人が「the 2017 IBM Champions for Cloud」を受賞した福岡情報ビジネスセンターの坂本新・コグニティブサービス事業部長だ。「IBMチャンピオン」にノミネートされただけでも光栄だと思っており、実際に選ばれた時には本当にうれしく思いました」と坂本部長は目を細める。

坂本部長は昨年、IT技術者がソフトウェア開発を競い合うイベントである「イノベート・ハブ・九州ハッカソン」のテクニカルサポートとして大会運営を支援した。600人規模の国際大会として成功、日本最大のハッカソンとなった。また、同社とお客様との混成チーム「JAPANIQ」は決勝戦に勝ち残って、ゼンリン賞を受賞した。この成功をきっかけにして、坂本部長はIBMのクラウドサービスのプラットフォームを広めていくための勉強会「BMXUG九州」の代表となり、さらにIBM関連のコミュニティであるBACの九州支部長と全国副会長を務める。常に最新のテクノロジーにチャレンジしている頼れるエンジニアである。

「Power Systems」を用いた基幹系コンピュータシステムの構築を手掛けてきた福岡情報ビジネスセンターは現在、クラウド、モバイル、ソーシャル、セキュリティの各分野でITサービスを開発・提供している。中でも自社保有のクラウドセンターを立ち上げて、金融機関向けシステムをクラウド上で提供・受託運営する取り組みは、国内外から高い評価を得ている。「今日、ビジネスの基盤はITなくして語れません。経営者の方々は、ITリテラシーを高め、伸ばすことが可能であり、ひいては日本経済の底上げにもつながることを訴えていきたい」と、福岡情報ビジネスセンターの武藤元美代表取締役は説く。

いま、AIブームである。1950年半ばに起きた第1次AIブーム（考えるのが速い人工知能）、1980年代の第2次AIブーム（物知りな人工知能）に続く、今日の第3次AIブームは、「データから学習する人工知能」が特徴だ。

すでにAIは、損害保険会社の社内照会応答システムに採用され、銀行内コールセンターでのリアルタイム支援システムとして導入されている。また、銀行店舗での接客支援や技術者派

なIT競争で後塵を拝した要因として、システム開発で生産性を上げきれない保守的な手法にとらわれている。ガラパゴス化が指摘されることが多い。その一方で、「なぜ、ガラパゴス化したのか？」という点については、既存のシステム保守に迫られていることも大きな要因といえるが、もっと根本的な課題が存在する。日本を代表する大企業のIT関係者らとの議論を重ねた武藤社長は、「欧米企業はユーザー自らシステムを内製化しているのに対して、日本企業は社外に業務委託したため、社内にITリテラシーを無くしてしまっている。ビジネスのスピードが格段に速くなった今日、委託ではスピード的に追いつかない上に、ビジネスの現状にそぐわない。つまり、標的は、常に動いているのです。ビジネスプラットフォームとして、その展開と同期しながら、システムを迅速につくり続けることが求められます」との見方を示す。

これら現状を踏まえて、武藤社長は、「外注に頼り過ぎた日本企業は、ユーザーとして自ら社内システムを開発できる体制にしていくべきです。今後、当社ではIBMワトソンを活用しながら、ユーザー企業が自ら



株式会社福岡情報ビジネスセンター 代表取締役 武藤 元美氏

1961年1月14日生、福岡県久留米市出身。福岡大学文学部卒。2006年株式会社福岡情報ビジネスセンター代表取締役に就任。2011年ユー・オス・グループ全国理事長に就任。同年九州IBMユーザー研究会会長に就任。同年福盛経営者賞を受賞。2013年と2014年にISUC最優秀講師賞を連続受賞。2014年全国IBMユーザー研究会連合会副会長に就任。2016年にDevOps推進協議会発起人理事就任。趣味はカヌー、登山、キャンプ。好きな言葉は「鶏頭(口)となるも牛後となるなかれ」

意思決定を支援するマシンだ。

「IBMワトソンは、人間のアシスタント役として、業務をサポートしてくれれます。IBMワトソンには、無限大の情報や知識を投入できるため、それらをもとに人間からの質問にも答え、正しいジャッジができるように

サポートしてくれます」と、武藤代表はIBMワトソンの活用について大きな期待を寄せる。

### AI時代における新たな企業向けITサポート

「いま、非常なAIブームで、



「データにこそ、価値があります。データは会社にとって、大きな資産であるにも関わらず、有効活用できていない現状があります。今まで気づいていないデータの価値や意義などは、IBMワトソンを使うことで知見として、具体的な活用方法を提案してくれます。結果として、業績を伸ばすことが可能なんです」と、武藤社長はAI時代における企業経営のあり方について語る。

「データにこそ、価値があります。データは会社にとって、大きな資産であるにも関わらず、有効活用できていない現状があります。今まで気づいていないデータの価値や意義などは、IBMワトソンを使うことで知見として、具体的な活用方法を提案してくれます。結果として、業績を伸ばすことが可能なんです」と、武藤社長はAI時代における企業経営のあり方について語る。

社内でのシステムを開発できるビジネスプラットフォームを提供していきます。われわれが従来手掛けてきたビジネス手法を一新することでお客様であるユーザー企業のビジネスを加速させて業績を伸ばすことが可能です。それは結果的に日本の国力を高めていくことにもなります」と、不退転の決意で臨む。



株式会社福岡情報ビジネスセンター コグニティブサービス事業部長 坂本 新氏

10月1日生、福岡市出身。福岡大学卒。福岡情報ビジネスセンターに入社して現在、AI分野を担当するコグニティブサービス事業部長を務める。2016年に発足した「イノベート・ハブ・九州ハッカソン」のテクニカルサポートとして大会運営を支援。600人規模の国際大会として成功させて、日本最大のハッカソンとした。その後、IBMのクラウドサービスのプラットフォームを広めていくための勉強会「BMXUG九州」の代表となり、IBM関連のコミュニティであるBACの九州支部長と全国副会長を務める。2017年1月、九州初めてとなる「the 2017 IBM Champions for Cloud」を受賞した。

従来、日本企業がグローバル  
ビジネスプラットフォームで  
日本企業は飛躍へ

従来、日本企業がグローバル  
ビジネスプラットフォームで  
日本企業は飛躍へ

**株式会社福岡情報ビジネスセンター**

【住所】福岡市博多区博多駅前3-26-29久勢博多ビル8F  
TEL:092-402-1311(代表) 〒810-0001  
E-mail:info@fbicenter.co.jp

【創業】1998年7月  
【資本金】5000万円  
【事業】システムコンサルティング  
システム請負開発  
クラウドセンター運営  
サイバーセキュリティ

福岡情報ビジネス  検索

http://www.fbicenter.co.jp